

鹿児島県医師連盟ニュース

編集・発行 鹿児島県医師連盟 TEL: 099 - 213 - 1011 FAX: 099 - 213 - 1012

衆院選、自民の前職4人と新人1人を推薦 鹿児島県医師連盟

衆議院の解散、総選挙は10月10日公示され、22日の投票に向けて選挙戦が始まった。今回の選挙は安倍首相の突然の「解散宣言」によるのもので、首相は「消費増税の使途変更による、全世代型社会保障の実現」などを争点として挙げたが、野党は「大義なき解散」などと、厳しく批判した。解散から公示までの間、小池東京都知事を代表とする「希望の党」が旗揚げし、一方で民進党は分裂と、政治は激動した。今回の総選挙は、消費増税の使途変更を始め、憲法改正、安保法制、アベノミクスの経済政策、原発ゼロなどを争点として、論戦が展開されており、安倍首相の政権運営、政治手法を国民に問う選挙でもある。

鹿児島県は、いわゆる「区割り」の変更で、小選挙区が5から4に減り、13人が立候補を届け出た。比例九州ブロックには、単独で、自民党が前職の宮路拓馬氏(37)、元職の湯川一行氏を登載した。1区は、公示直前になって、自民党公認の保岡興治候補(78)が、病気を理由に立候補を辞退、変わって保岡氏の長男で、鹿児島事務所所長の保岡宏武氏(44)が自民党の追加公認を得て、立候補した。

鹿児島県医師連盟(池田琢哉委員長、約700人)は、10月9日までに、鹿児島県内4選挙区と比例九州でいずれも自民党公認の立候補予定者5人の推薦を決めた。保岡宏武氏の推薦については、同連盟執行委員全員の承認を得て決めた。

鹿児島県医師連盟委員長 池田琢哉

池田委員長は今回の解散、総選挙について、「消費増税分を子育て支援はもちろんのこと、医療分野についても社会保障の財源が確保できるよう、自民党に強く求めたい。医療が厳しくなるなか、少子高齢時代を乗り切るためには、もっと政治に目を向け、我々の政策の実現を図らねばならない。推薦候補者の話に耳をかたむけていただきたい」と話している。

(文責・事務局)

各選挙区の推薦候補は次の通り。

【鹿児島1区】	保岡 宏 武	(44)	自民新	
【鹿児島2区】	金子 万寿夫	(70)	自民前	当選2回
【鹿児島3区】	小里 泰 弘	(59)	自民前	当選4回
【鹿児島4区】	森山 裕	(72)	自民前	当選5回
【比例九州】	宮路 拓 馬	(37)	自民前	当選1回